

平成30年11月30日

# 公共施設マネジメントの方向性

清須市総務部財政課

# 第1章 方向性の確認

# 1 打ち出す方向性

- ・公共施設の総量を削減していくのが、本計画の目的。
- ・ただし、ただ削減するのではなく、機能を確保しつつ、将来の少子化・高齢化から生じる課題を見据えた、**新たな公共空間を創造**していく、いわば清須市の価値を高める取組み。

## ①量から質へ

「量から質へ」の視点で、施設総量削減と機能・利便性の向上の両立を図る。

## ②地域の課題解決

将来の課題解決を見据えた施策の方向性に合致する施設のあり方を提案する。

## ③多様な世代が参加できるコミュニティの場の創造

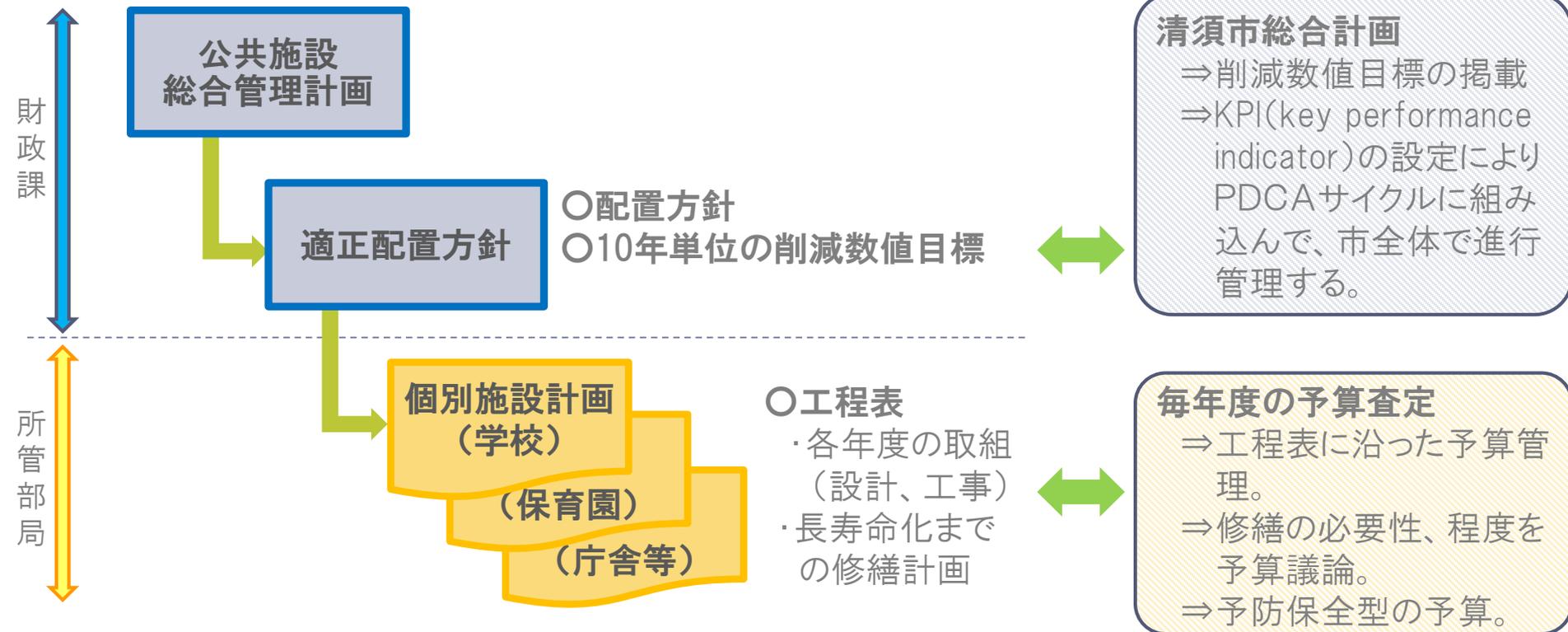
	これまでの自治組織	今後の自治組織
特徴	様々な行事への参加が半強制的	緩やかなコミュニティ
課題	自治会参加者の負担増 若者、よそ者の離脱	行政の補助的機能の低下 若者の参加機会の確保

「人」と「場所」の関係性を意識し、清須市の公共空間となる公共施設を目指す。

## 2 個別施設計画と進行管理の仕組み

(計画体系と役割分担)

(進行管理)



○個別施設計画の策定に向けては、3階層の計画体系とする。

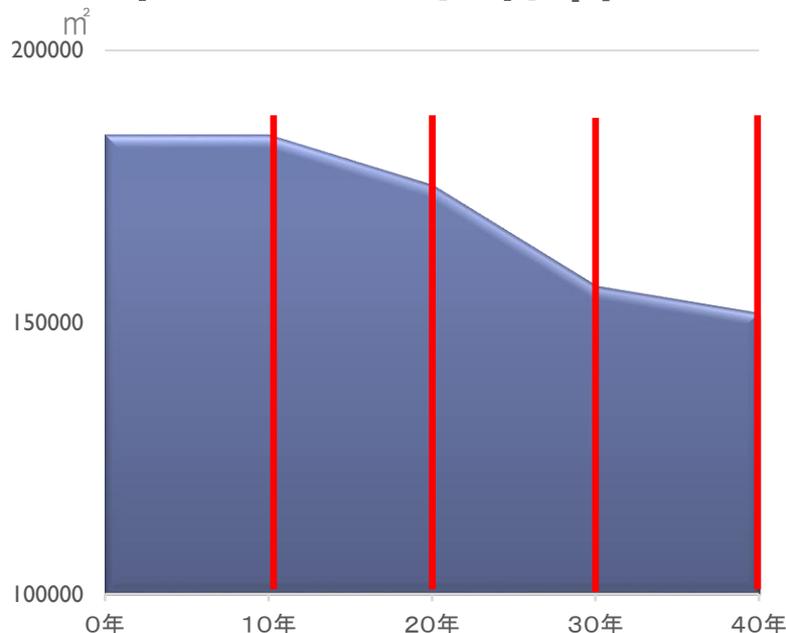
○個別計画は所管部局が中心となって作成。(財政課も協力して進める)

○個別施設計画で定める工程表を各所管部局が管理し、毎年度の予算査定において、確認、あるいは必要な措置を議論する。

○公共施設の総量、削減目標は市総合計画でも目標値を設置して管理していく。

### 3 計画実効性の担保

#### ① 10年スパンの目標管理



公共施設総量削減目標からのアプローチ

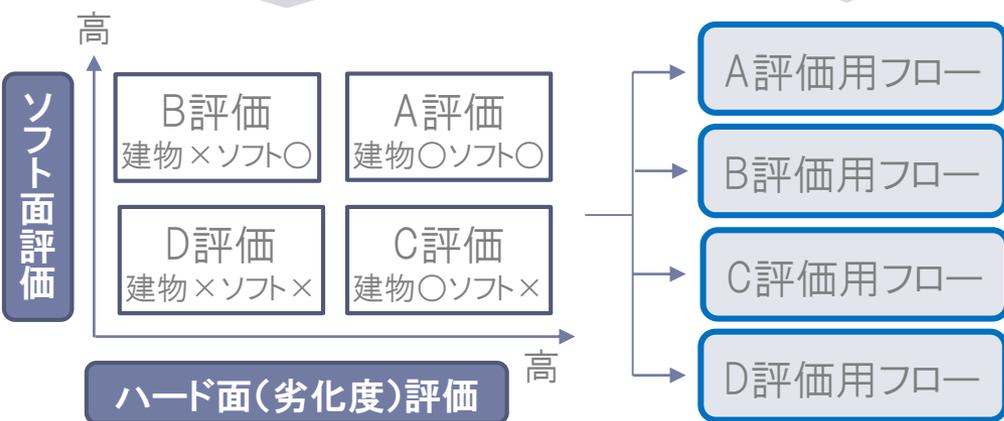


公共施設個別要因（老朽化度等）からのアプローチ

#### ② 第2次総合計画へのビルドイン

- 本計画単独での進行管理では、計画の実効性が担保されにくい。市全体の課題として位置づけることが、計画の成否を左右する。
- そのためには、総合計画に達成すべき課題と成果指標を設けてPDCAサイクルを回す仕組みにすることが必要。

# 4 評価指標の整理



# 5 施設分類

分類	施設区分	施設名
一般利用型	文化ホール	小田井公民館、清洲市民センター(中央公民館)、新川地域文化広場(カルチバ新川):【文化ホール】、春日公民館
	集会施設	西枇杷島会館、西枇杷島勤労福祉会館(にしびさわやかプラザ)、水の交流ステーション、庄内川水防センター(みずとぴあ庄内)、清洲コミュニティセンター、朝日公民館、新川ふれあい防災センター:【集会施設】
	スポーツ施設	清洲勤労福祉会館(ARCO清洲):【プール、体育館】、新川地域文化広場(カルチバ新川):【プール】、春日B&G体育館
	教養・文化施設	西枇杷島問屋記念館、清洲城(天主閣、芸能文化館、蔵)、清洲ふるさとのやかた、飴茶庵、市立図書館、はるひ美術館、
利用者限定	小中学校	西枇杷島小、古城小、清洲小、清洲東小、新川小、星の宮小、桃栄小、春日小、西枇杷島中、清洲中、新川中、春日中
	幼稚園・保育園	<幼稚園>西枇杷島第1、<保育園>西枇杷島、芳野、本町、一場、花水木、新清洲、朝日、須ヶ口、土器野、桃栄、星の宮、中之切、ネギヤ
	児童館	<児童館>西枇杷島、小田井、清洲、桃栄、春日、 <児童センター>清洲、新川、星の宮<子育て支援センター>西枇杷島、清洲、新川、春日
	福祉施設	西枇杷島老人福祉センター、清洲総合福祉センター、新川福祉センター、春日老人福祉センター<その他>西枇杷島生きがいセンター(にしび創造センター)、老人憩いの家、春日老人3階(県貸付)
義務的施設	保健センター	西枇杷島、清洲、新川、春日
	庁舎等	市役所庁舎、西枇杷島庁舎、たんぼぼ園、学校給食センター、にしびリサイクルセンター、春日資源回収ステーション、消防団詰所、防災倉庫、等残りの施設

# 6 施設類型に応じた将来の行政サービスの方向性①

## ■対象施設類型 「文化ホール」「集会施設」「スポーツ施設」「教養・文化施設」

### 論点・課題

### 検討の方向

#### 文化ホール

- 利用率は必ずしも高くない。
- 市民以外の利用も多い。
- 周辺市町村の施設状況も考慮する必要がある。

○ホール機能は市内1か所に統合することや集約化に伴う施設リニューアルも含めた検討が必要。

#### 集会施設

- 市民利用型施設だが、実際の利用では、特定団体・利用者に偏っているものもある。
- 老朽化も進んでいる。

○地域の集会所との機能の違いが少なく、見直しも視野に入れた検討が必要。

#### スポーツ施設

- 体育館は、学校体育館も含め利用率が高い。
- プールは維持管理コストが高い。

○プールは市内に2箇所必要かどうかも含めた検討が必要。

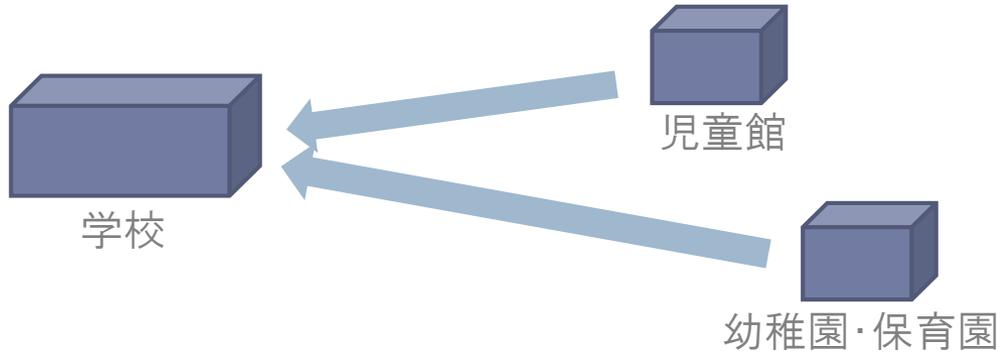
#### 教養・文化施設

- 美術館、清洲城の入場者数は減少傾向。
- 施設単体での利用者数増加は難しく、面的な視点が必要。

○代替性は低いため、継続を基本としつつ、観光振興に向け、清洲城周辺は面的な整備も検討が必要。

# 7 施設類型に応じた将来の行政サービスの方向性②

■対象施設類型 「小・中学校」、「幼稚園・保育園」、「児童館」



○小中学校は、現在、長寿命化工事を行っているので、基本的には、他の類型の施設を受け入れる。

○幼稚園・保育園、児童館は学校への複合化を目指す。

**学校 × 児童・保育**

子どもの保護者を中心とした  
若い世代の公共空間

○学校、保育園は、保護者を中心とした若い世代が中核。

学校、保育園を『学び』でつながる場とし、保護者を中心とした若い世代のコミュニティの場となる整備を目指す。

(このほか) **学校 × 高齢者**

子ども会の役員への参加などの  
地域コミュニティ

**学校 × 保育 × 高齢者**

高齢者も運営に参加する形の  
学童保育

# 8 施設類型に応じた将来の行政サービスの方向性④

## ■対象施設類型 「福祉施設」

高齢者に占める介護保険の要支援、要介護者の割合

清須市 (単位:人)

		29年度 (2017)	32年度 (2020)	37年度 (2025)
65-74歳		8,282	7,990	6,623
男性	要支援1・2	124	107	88
	要介護1・2	116	128	115
	要介護3以上	111	135	121
	小計	351	370	324
	割合	4.2%	4.6%	4.9%
65-74歳		7,324	8,321	9,721
女性	要支援1・2	678	732	909
	要介護1・2	744	747	886
	要介護3以上	764	899	1,160
	小計	2,186	2,378	2,955
	割合	29.8%	28.6%	30.4%
65歳以上計		15,606	16,311	16,344
要支援・要介護計		2,537	2,748	3,279
割合		16.3%	16.8%	20.1%

※2017年度人口は住民基本台、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口ー平成25年3月推計ー」  
介護部分は、介護保険事業状況報告

### 利用面での検討

○要支援・要介護 高齢者の約2割

#### 財源

介護保険料  
公費負担等

#### サービスの担い手

介護事業者＝民間  
(施設、居住系、居宅)

○残り約8割の高齢者については  
「人生100年時代」に、

- ①要支援⇒介護なしへ
- ②介護なしを要支援にしない

取組みが必要！

介護状態にしないための『フレイル（加齢による虚弱）予防』  
⇒健康体操等の活動

### 施設面での検討

- 高齢者が頻繁(週3日～毎日)に体操に通える環境を考えると、現在の老人福祉施設よりは地域に点在していたほうがよいのでは。
- 現状の「老人福祉施設」は将来的に見直し、健康体操等の支援サービスを中心とした施策を、地区集会所等で展開していくことも検討する。

# 9 施設類型に応じた将来の行政サービスの方向性③

## ■対象施設類型 「保健センター」

施設調査や担当部局ヒアリング等から見えてきたもの

### 施設面 での課題

- ワンフロアで検診等の業務が可能な施設が少ない。
- 子連れ女性が健診に見えた際、子どもを預けるスペースがない。
- 4箇所分散しているため、利用者も分散され、結果、利用されていない日数が多い。人口が減少する将来はさらにこの傾向が加速すると考えられる。

### 利用面 での課題

- 各保健センターの利用状況は年間120日程度にとどまっている。

### 利用面での検討

- 現状でも稼働率、利用率が低い状況を改善する必要がある。

### 施設面での検討

- 現状の施設を長寿命化しても、もともとサービス提供には支障がある。
- 災害時の機能として、医療・保健活動を行う上での拠点とする必要がある。

### 保健センターの考え方

- 現状の4箇所から1箇所へ統合も考える。
- 機能不足を補うための建替えも視野に入れた検討をする。

# 10 現時点での2次評価（案）に基づく施設総量

2次評価結果による面積換算は次の倍率で行っている。

見直し:0.2 転用・統合:0.5 移転・更新:0.5 継続:1.0 学校(築40年超):0.9 幼・保(民営化):0.7

〔 学校についても、築40年を超えているものは、将来の子ども数の減少に伴う減築を想定し×0.9  
 幼・保については、現施設の3割が民営化すると仮定 〕

( 単位:左欄(面積)㎡、右欄(割合)% )

	現状①		2次評価案②		差引 ②－①	
	面積(㎡)	割合(%)	面積(㎡)	割合(%)	面積(㎡)	割合(%)
総量	186,006㎡	100.0%	156,750㎡	100.0%	▲29,256㎡	▲15.7%
うちA評価	56,215㎡	30.2%	51,110㎡	32.6%	▲5,105㎡	▲9.1%
うちB評価	12,727㎡	6.8%	10,114㎡	6.5%	▲2,613㎡	▲20.5%
うちC評価	40,842㎡	22.0%	35,615㎡	22.7%	▲5,227㎡	▲12.8%
うちD評価	45,518㎡	24.5%	33,649㎡	21.5%	▲11,869㎡	▲26.1%
評価空欄	30,704㎡	16.5%	26,262㎡	16.8%	▲4,442㎡	▲14.5%

現在の2次評価案としては、かなり大胆な配置方針案を示したものであるが、それでも

**目標である施設総量17.7%の削減に到達しておらず、更なる削減が必要な状況。**

## 第2章 二次評価の今後の取組

# 1 1 二次評価における減価償却率の活用

## ■ 2次評価におけるフロー



### 「減価償却率」で選択

何でも長寿命化⇒×  
長寿命化する効果の見極めが大切



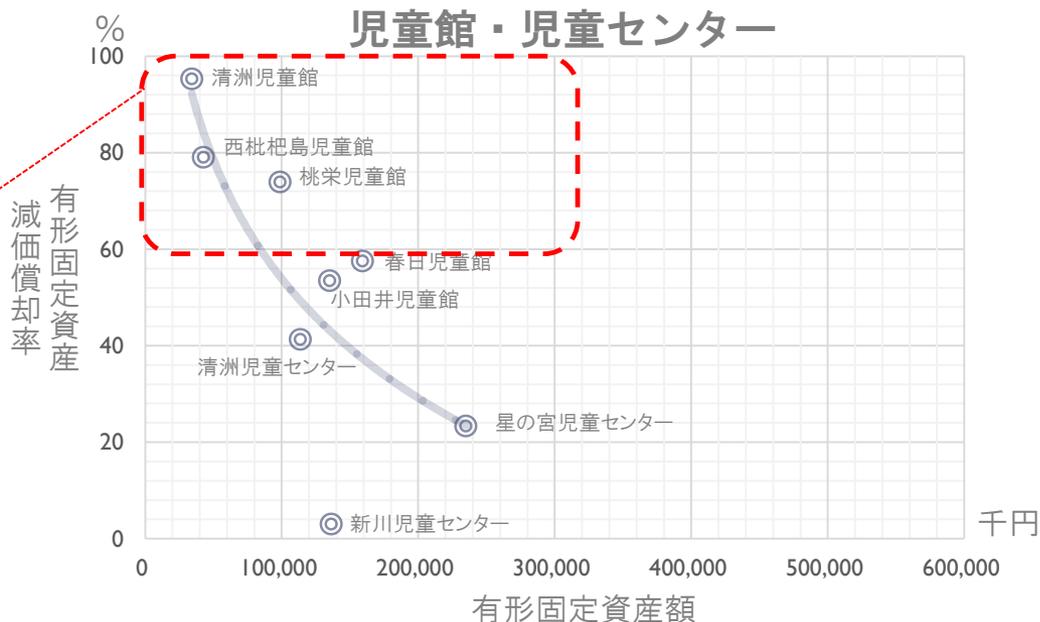
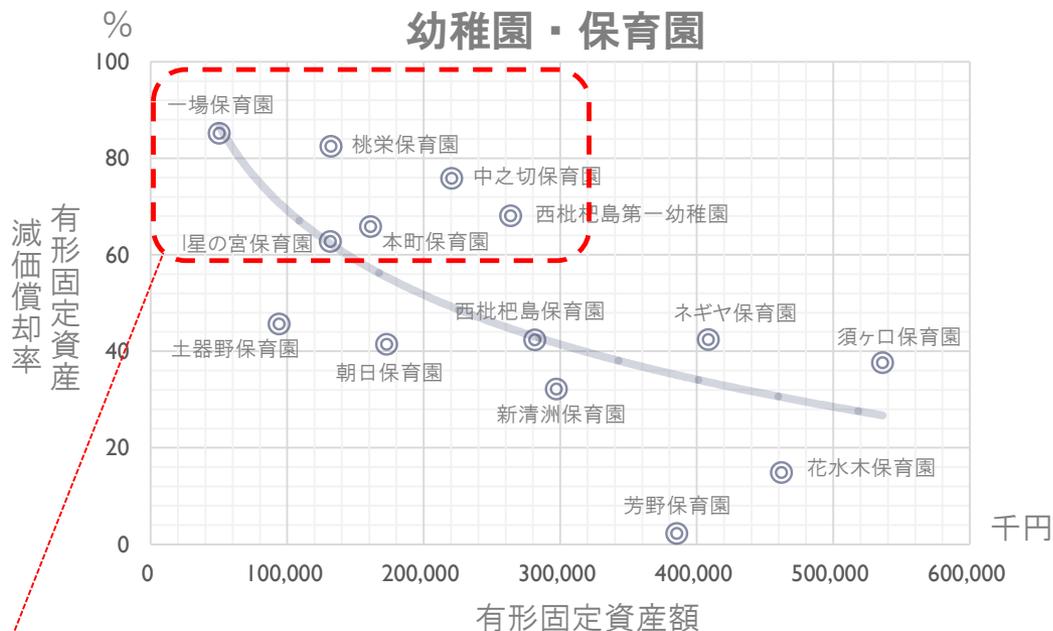
## ■ 減価償却率の活用

(右の散布図)

有形固定資産額(=償却資産)  
× 平成29年度決算ベースの減価  
償却率

減価償却率が高い施設は、長寿命化より建替え、あるいは複合化として移設する選択肢が効果的。

また、個別計画策定後は、固定資産台帳との連携が必要となるため、指標に取り入れていく。



# 1 2 二次評価における将来推計の活用①

## 施設類型ごとの行政サービスのあり方

分類	施設区分	将来推計
市民利用型	文化ホール	総人口推計
	集会施設	総人口推計
	スポーツ施設	64歳未満人口推計
	教養・文化施設	総人口推計
利用者限定	小中学校	15歳未満人口推計
	幼稚園・保育園	15歳未満人口推計
	児童館	15歳未満人口推計
	福祉施設	75歳以上人口推計、 要介護人口推計
義務的施設	保健センター	総人口推計
	庁舎等	総人口推計

現時点での  
施設の状態  
+  
利用状況

施設  
再配置  
方針案

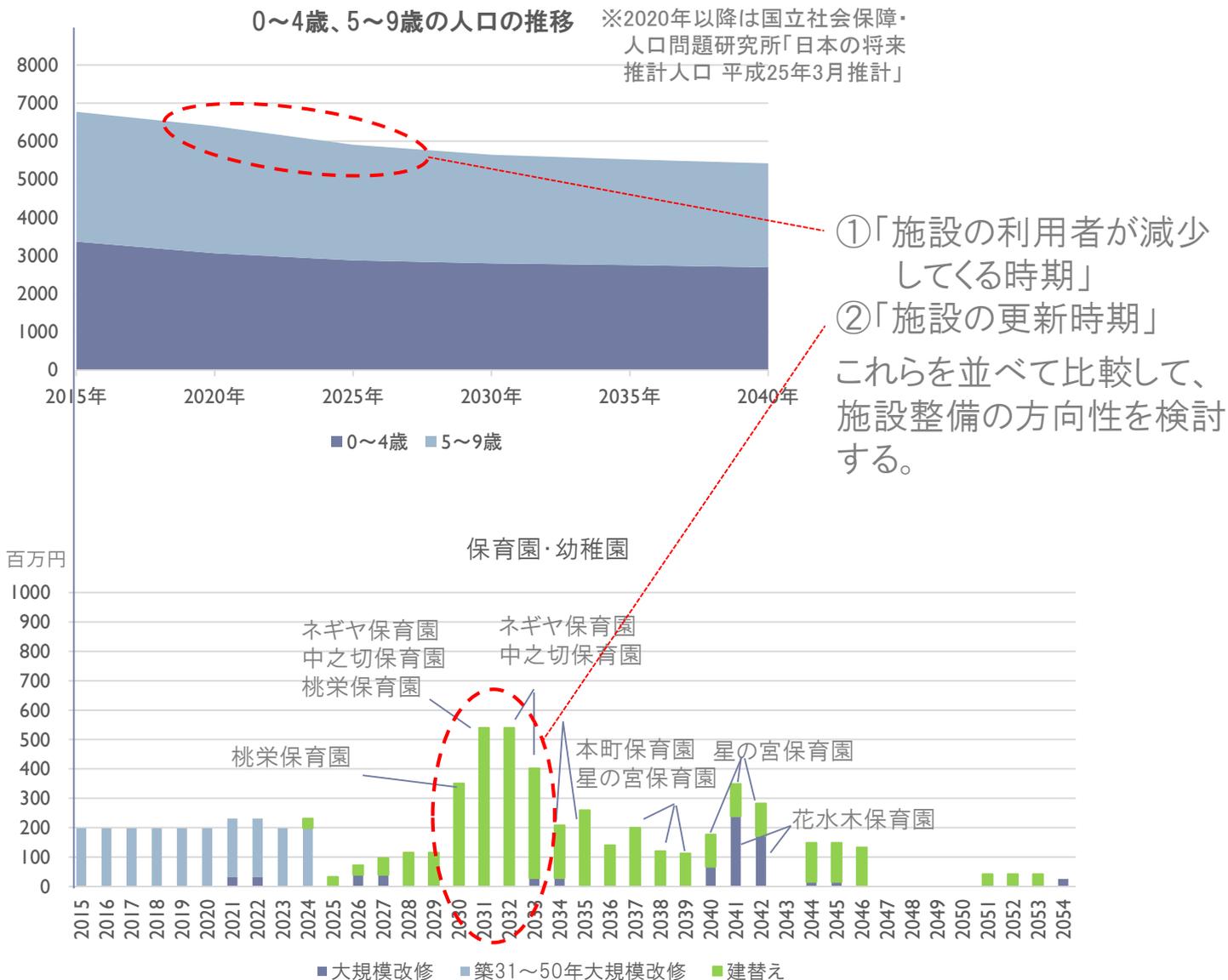
# 1 3 二次評価における将来推計の活用②

施設のあり方を考える際は、施設利用者の将来の姿を念頭において進める必要がある。

将来人口推計  
(0～9歳)



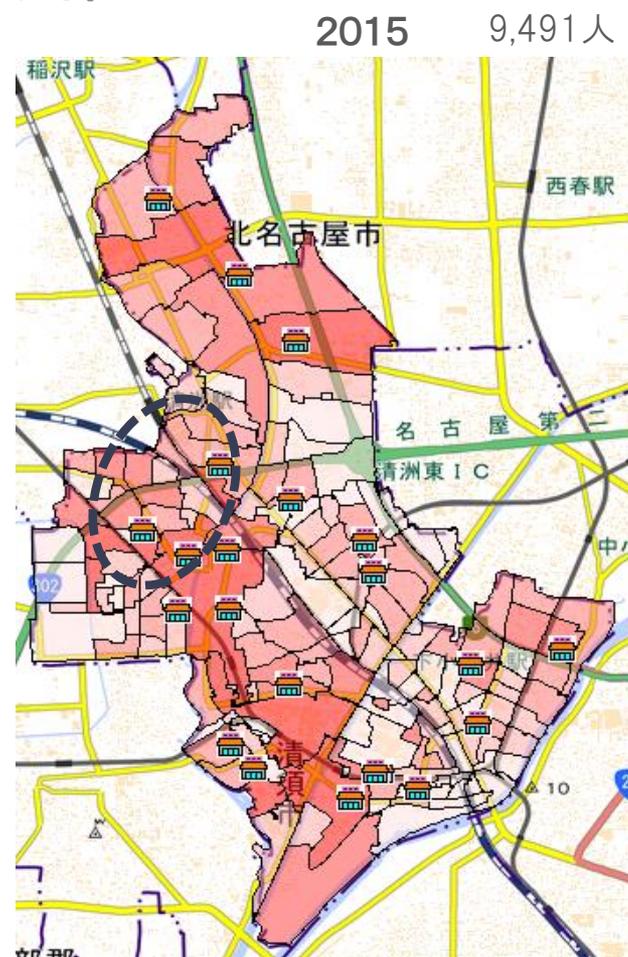
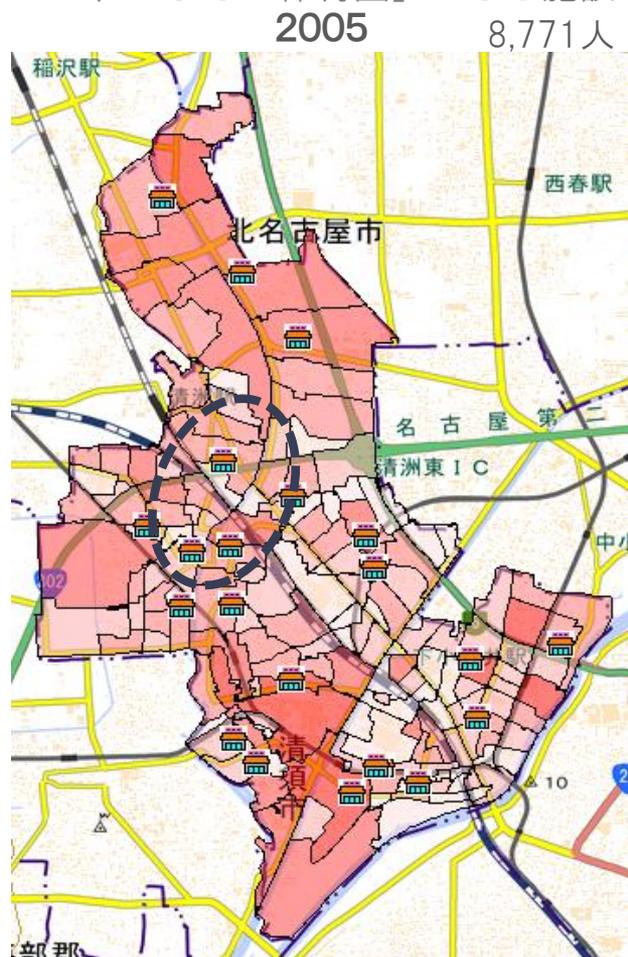
施設別  
減価償却額・  
更新時期



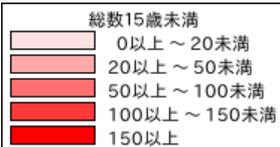
# 1 4 二次評価における統計指標の活用例①

## 「児童館・保育園」×「15歳未満人口」

- 清須市は出生率が増加しており、15歳未満人口をみても清洲地区を中心に増加している。
- 児童館・保育園の設置場所については、移動距離が重要な要素となるが、保育の質の向上の面からの施設のあり方検討が必要。
- また、児童館・保育園は保護者を中心とした若い世代が多く、そうした世代をまちづくりに関わってもらうような仕掛けとして、「まちの保育園」となる施設づくりも求められる。



政府電子統計  
e-stat  
j stat map  
で作成



# 15 二次評価における統計指標の活用例②

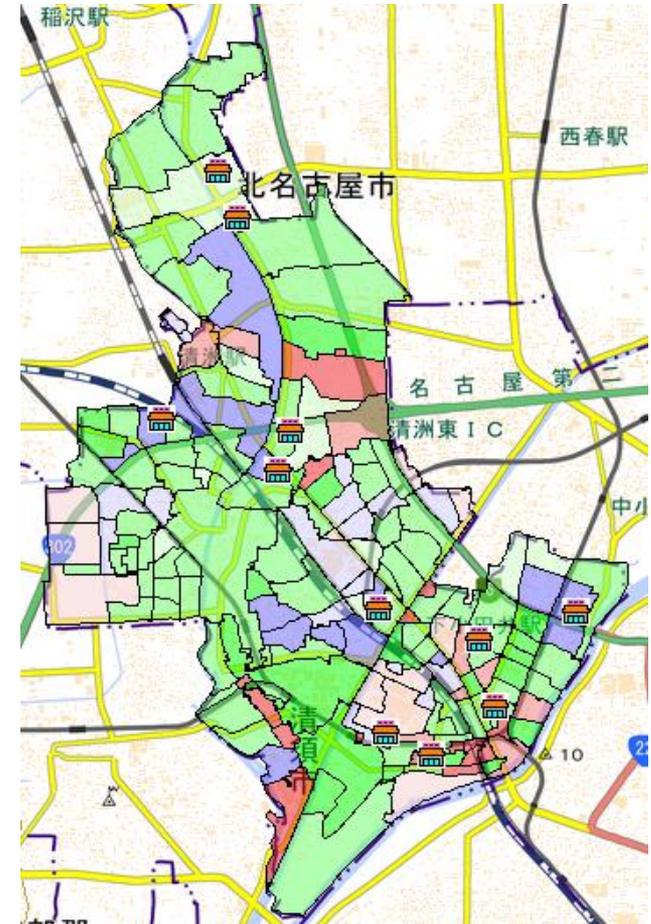
## 「集会所・高齢福祉施設」×「65歳以上人口割合」×「18歳未満同居率」

- 「65歳以上人口割合」×「18歳未満同居率」により、小地域ごとの課題が高齢者・子育て世代のどちらにウエイトがあるかを示したもの。暖色系が増加していることから、10年前からは「高齢者の課題 $\geq$ 子育て世代の課題」となった地域が全体的に増加していることが読み取れる。
- 集会所・高齢福祉施設のターゲットは主に高齢者であり、小地域の課題（＝市が行うサービスの方向性）を意識した施設配置の検討が必要となる。

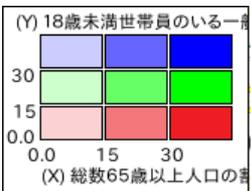
2005



2015



政府電子統計  
e-stat  
j stat map  
で作成



# 16 ワークショップ

## 第1回 10月27日(土)午前10時～正午 テーマ『清須市の公共施設について知ろう』

- ・公共施設マネジメントゲーム(さいたま市作成)
- ・清須市の公共施設のこれから
- ・参加者13名(欠席2名)



左 公共施設マネジメントゲーム

下 ワークショップの様子



### 「清須市の公共施設 これから求められるもの」主な意見

- 点在していて小さく、管理が大変なため、全体最適化の視点からの施設の統廃合が必要。
- 幅広い方々と関われるような施設が欲しい。
- バリアフリー化や古い施設の改修が必要。
- 大きな規模の遊べる施設が欲しい。
- ARCO清洲とカルチバ新川など似たような施設が多い。

## 第2回 11月17日(土)午後1時30分～3時30分 テーマ『公共施設の有効活用について考えよう! ①』

- ・桃栄小学校の施設見学
- ・小学校と複合化したらよいと思われる施設・機能

## 第3回 12月15日(土)午前10時～正午(予定) テーマ『公共施設の有効活用について考えよう! ②』

- ・小学校と複合化したらよいと思われる施設・機能(第2回の続き)
- ・複合化に必要な視点

施設の維持管理方針を決めるにあたり、複合化を選択する際に反映する。

○施設の複合化に必要な視点、留意すべき事項

○清須市にとって複合化した方がよい施設機能